【所属名：総務部 財政課】

【会議名：令和6年度第2回入札監視委員会】

会 議 録

作成日 令和6年8月6日

日	令和6年8月1日	時間	13:30~14:50	場所	市役所2階 201.202 会議室
件名	(議題) 発注状況について 抽出案件の審議について				
出席者	【委員】	沢田克己(委員長)、保科正晴、池田隆明、小村 隆、高橋 登			
	【事務局】	総務部 大嶋部長 財政課 猪又課長、塚田課長補佐、佐藤検査監、井伊主査			
	【担当課】	ガス水道局 青木係長、鍋島係長 建設課 前山係長 こども課 磯野主査 農林水産課 中村技術専門員			
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	3人

会議要旨

- 開 会
- 部長あいさつ
- 委員委嘱
- 委員長選出及び職務代理者の指名
委員長 沢田克己委員
職務代理者(副委員長) 保科正晴委員
- 報 告
事務局 ・資料ナンバー1から5について説明
委 員 ・今年度工事の解体工事の落札率が低い理由は何か。
事務局 ・1件落札率が低い工事があり、低かった理由は仮設工事の部分で積算より低く見積もられていた。
委 員 ・解体工事で今年度1件不調となっているが、その理由は。
事務局 ・金額が合わなかったためである。
委 員 ・地質調査の落札業者は過去にも市内の調査を受注しているか。
事務局 ・過去にも地質調査の仕事を落札している。
委 員 ・不調となった工事は不落随契にならなかったものか。
事務局 ・再入札の基準を超えているため1回で不調となった。
- 審 議
委員長 ・今回の審議案件について令和5年11月から令和6年6月までの発注案件のうち、私の方で選定した。案件の審議は1件ずつ行う。事務局の概要説明の後、委員から意見、質問をいただく形で進めていきたい。

【No. 1】

- 事務局 ・【工事概要、入札状況を説明】抽出された理由としては、参加したうち2者が失格であり、かつ落札率が100%である。
- 委員 ・パソコンをたたけば工事価格が計算できる。100%に近い額で入札して他はほとんどない額で失格するという状況のため選ばせていただいた。これはどういった工事であったか。
- 事務局 ・農業用排水路の災害復旧工事であり、内容はフトン籠の設置と法面の復旧工事であり、仮設工として敷鉄板を計上している。
- 委員 ・制限付き一般競争入札ということだが、緊急を要しなかったか。
- 事務局 ・排水路なので緊急性は低い。
- 委員 ・公募条件として合併前の糸魚川市の業者のみが対象となるのは、合理的ではない気がするが、その条件となった理由は何か。
- 事務局 ・災害対応のため地理などを承知していることが求められるため、ある程度地域性を加味している。
- 委員 ・緊急ではない工事でありながら、地域条件がつけられるのは、矛盾を感じるので整理した方がよいのではないか。
- 事務局 ・今一度内容を精査して次回委員会で回答したい。
- 委員 ・設計の内訳をみると千円単位や円単位で出ているものもある。その違いは何か。
- 事務局 ・市の設計は、県の積算システムを使っている関係上、土木や農地、林業で端数の切り方が違っている。応札者の方は積算システムが異なるため、一概に理由は言えない。
- 委員 ・単価が公表されていて比較の見積しやすい工事か。
- 事務局 ・一般的な工事であるため積算はしやすいと考える。
- 委員 ・落札した会社以外の2社は予定価格を算出できたものか。
- 事務局 ・各社の積算内容を確認する中で、失格となった2者は直接工事費の仮設工で設計と大きな差が生じており、その計算が異なっていると思われる。
- 委員 ・仕事を取りたいと思えば金額を下げてもよいと思うが、落札者はなぜ予定価格と同じ数字を入れて、他の2社がこんなに入札額が下がったのか、理由はわからないが、普通はあり得ない。
- 委員 ・ほかに競争者がいると思うときは入札額を下げるなり対策を取るかと思う。

【No. 2】

- 事務局 ・【工事概要、入札状況を説明】抽出理由は、入札参加者が1者であるにもかかわらず再入札であり、かつ契約金額が高額なためである。
- 委員 ・応札者が1者だったのは、例えば橋を造ったのが応札者であるとか、塗替え工事が特にこの業者でなければできないとか、何か特別な事情があるのか。
- 事務局 ・調査したところ有害物質が含有されており、この塗装を剥ぐときに安全対策が必要となるため、そういった処理方法に精通した業者が市内に少ないため1者のみの参加となったと思われる。
- 委員 ・共通仮設費、現場管理費、一般管理費の積算は直接工事費の何パーセントという

計算方法か。

- 事務局 ・ 共通仮設費に関しては、鉛対応は積み上げ計上となっている。
- 委員 ・ No.1 の工事と同じ落札業者だが現場管理費と一般管理費で金額の差が出るのかわからない。
- 事務局 ・ 共通仮設費が変わると現場管理費も影響されて変わってくる。

【No.3】

- 事務局 ・ 【工事概要、入札状況を説明】 抽出理由は、3 者の入札でありながら落札率が 100% と極めて高いためである。
- 委員 ・ 落札率 100% ということは、資材が高価ということか、それとも利潤が高く設定されているということか。
- 事務局 ・ 金額の主な部分は機器の価格であり、応札者も様々な取引先から見積りを徴収しているため、価格に差が出ていると思われる。
- 委員 ・ 積算した時に部品の値段の算定はどのように行ったか。
- 事務局 ・ この案件は仕様書発注であるので、積算ではなく、見積を徴して予定価格を設定している。
- 委員 ・ 見積りについてトータルで一番安いところか、それとも項目ごとで比較しているか。
- 事務局 ・ 今はトータルで一番安いところを採用している。
- 委員 ・ 見積り依頼先同士で話し合いをして、金額をあげて出そうということになれば何が最適かわからないのではないか。
- 事務局 ・ 課題があることは認識しており、よりよい方法を研究しているところである。改善することは難しいところもあるが、検討していきたい。
- 委員 ・ 機械費で最低と最高の応札で 67 万円もの差が出る理由は何か。
- 事務局 ・ 多くの部品で構成されているため、積み上げていくと差が出ると考えられる。

【No.4】

- 事務局 ・ 【工事概要、入札状況を説明】 抽出理由は、最低制限価格と当初契約金額が同一であり、かつ、くじ引きによる落札者決定がなされているためである。
- 委員 ・ 最低制限価格で 2 者が同額というのは違和感がある。思い当たる理由はあるか。
- 事務局 ・ 単価は公表されているため、知識がある業者が積算すれば計算できるので、同じ金額となることもありうる。
- 委員 ・ 最低制限価格の率は公表されているか。
- 事務局 ・ 率は公表していないが、計算式は公表している。
- 委員 ・ 計算式の公表も事後にした方がよいのではないか。
- 委員 ・ 計算式がわかっているなら内訳で差が出るのはなぜか。
- 事務局 ・ 各社の積算システムによるものと思われる。
- 委員 ・ この 2 者に何かつながりはあるか。
- 事務局 ・ 何かつながりがあるという情報は把握していない。
- 委員 ・ 最低制限価格の率は公表していないが、この案件の率はわかるものなのか。
- 事務局 ・ 公表しているものは、人件費や経費、その他原価、一般管理費にかける率を公表

しているので、最低制限価格の率を公表はしていない。

- 事務局 ・ 予定価格を割り出してから、公表している計算式にあてはめて最低制限価格を算出する。
- 委員 ・ 最低制限価格の算出については工夫が必要と思われる。

【No.5】

- 事務局 ・ 【工事概要、入札状況を説明】 抽出理由は、1者随契とはいえ、落札率が100%となる金額で契約が結ばれた理由を明らかにするためである。
- 委員 ・ 1者随契は、落札率が通常は100%になるものか。
- 事務局 ・ 高くなる傾向にあるが、100%というのはあまりない。
- 委員 ・ この業者が選ばれた理由は何か。
- 事務局 ・ 県建築士会糸魚川支部と応援協定を締結しており、そこから出動指定をうけた業者である。

【その他】

- 事務局 ・ 資料ナンバー7について、去る6月27日に開催された市議会総務文教常任委員会において、令和4年から令和6年5月までの入札監視委員会の審議状況等をそのときの委員会の中で説明をしたものであり、その状況について報告する。
- ・ これまでの審議実績、また、市に提言いただいた内容、また、入札監視委員会で審議し、その内容を公表することをとおして、市担当課職員及び市内業者へのコンプライアンス意識を醸成し、官製談合を抑止することにつながっている旨、説明した。
- ・ 総務文教常任委員会での質疑応答をとおし、議会からは当市において二度と官製談合事件を起こさないため、入札監視委員会において厳正な審議を期待されているものと受け止めたところである。
- ・ また、事務局では、入札監視委員会からいただいた提言、具体的には現在、仕様書発注方式に係る予定価格の設定方法、変動型最低制限価格制度について他市の状況を調査しつつ、協議・検討を進めているところであり、その進捗状況については随時当委員会で報告したい。
- ・ 次回開催予定は11月または1月の開催で日程調整したい。なお、次回の審議案件の抽出については、高橋委員にお願いする。

【終了】